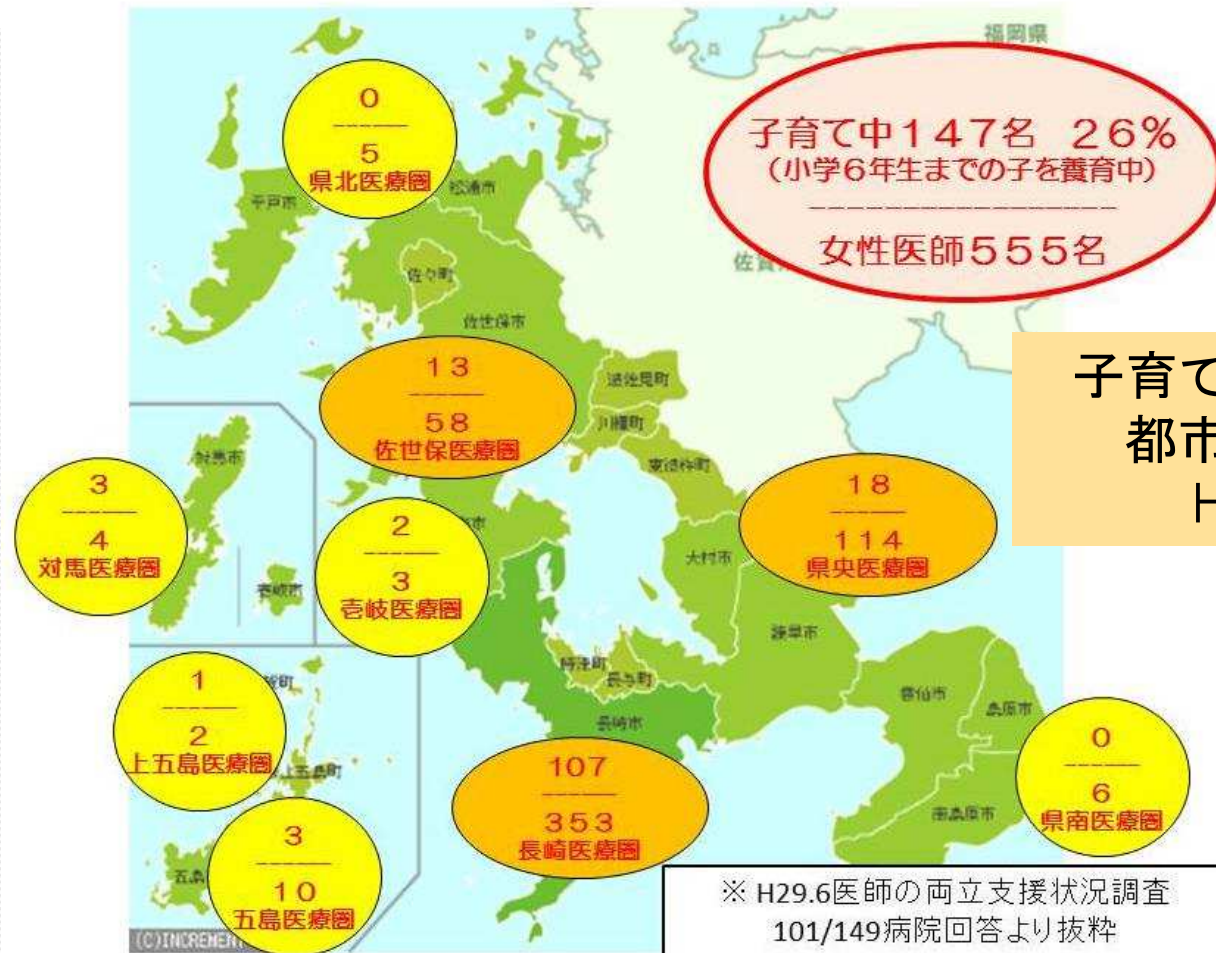
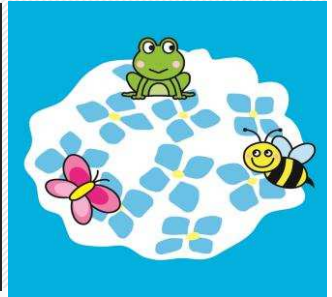


地域で活躍出来る環境の 好事例

——長崎県——

長崎県医師会常任理事
瀬戸牧子 上戸穂高

長崎県の病院に勤務する女性医師



子育て中の医師は
都市部に局在
H29. 6

長崎県の病院に勤務する女性医師の分布図

女性医師が勤務する病院は偏在している。



子育て中145名 24%
(小学6年生までの子を養育中)

女性医師616名

少しだけ裾野が広がっている

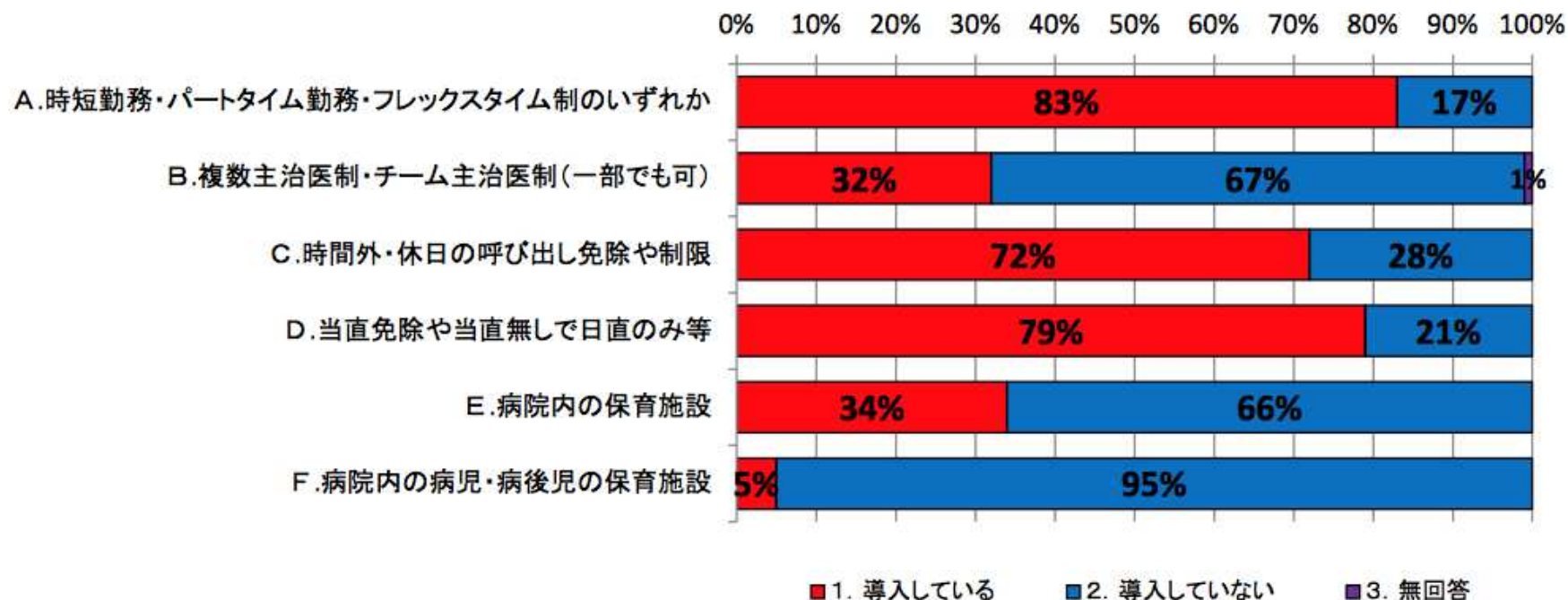
※ R1.6医師の両立支援状況調査
100/149病院回答より抜粋

勤務地が広がった理由は？

- 絶対的な女性医師の数の増加
- 地域枠の女性医師が増加

病院が導入している両立支援制度や施設について 聞いてみました

(N=100病院)



ワークライフバランス推進員 とは

各医局の旗振り役として

大学各医局

長崎県鳴滝塾関連病院16病院

推進員は男女を問わない

希望者優先であるが、医局長、教授推薦

あじさい通信により情報の提供

現在、長崎県内16病院に

ワークライフバランス推進員40名がいます。

ワークライフバランス推進員の役割

医局窓口としてメディカル・ワークライフバランスセンターと有益な情報交換や協力関係を築く

医師のワークライフバランス実現に関する相談窓口、情報発信、企画などの役割を担う(あじさい通信)

院内に推進員がいることで、また自分になることで

若手医師のモチベーション維持

自分らしいキャリアデザインのイメージに役立てられる。

地区の周辺の病院への波及効果

今後の問題点

「働き方改革」を意識している医局長が多い反面、
子育て中の女性医師に
対する緩和措置を全員が適用すると、
医局運営が難しくなっている現状がある

土曜日勤・日曜日勤・金曜当直で緩和処置を徐々に平常化をはかる

現在大学勤務子育て中女性医師69名中
フル勤務2名＋少なめフル勤務5

緩和処置を卒業してフル勤務に復帰する女性医師がいない、まれ
不公平感を生む一因となっている

